

book

最近、おもしろかった本

『マネー・ボール 奇跡のチームをつくった男』

マイケル・ルイス 著 中山宥 訳 ランダムハウス講談社 1680円(税込)

貧乏球団はいかにして強豪チームを作り上げたか

大リーグ屈指の貧乏球団オークランド・アスレックスのゼネラルマネージャー（GM）が、いかにして強豪チームを作り上げたのかを解明した本である。

GMは、チーム編成の責任者として、監督・コーチ・選手・スカウトの生殺与奪の権を握る。アスレックスのGMビリー・ビーンは、部下であるハーバード大卒の秀才ポール・デボデスタとともに、ニューヨーク・ヤンキースの約3分の1という限られた投資額で、勝利に貢献する選手を獲得するノウハウを確立した。

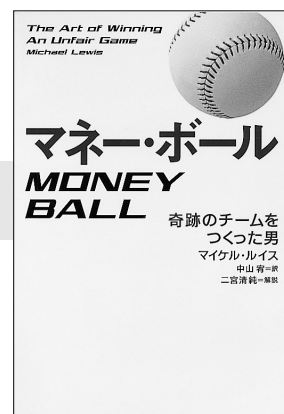
緻密なデータ分析の結果、野手については、守備力・走力よりも出塁率が勝敗を左右するとの結論に至り、出塁率が高い選手を集めた。出塁率は、打率が低くても四死球が多ければ上昇するため、年俸の高いスター選手や多額の契約金を要する注目新人が必ずしも上位に来るとは限らない。投手については、球威や勝敗、防御率よりも被本塁打率や与四死球率といった見過されがちなデータが勝敗を左右するとし、他球団で日の目を見ない投手を獲得した。自球団の選手を「チェスの駒」と称し、シーズン中でも選手の入

れ替えを頻繁に行なった。有力選手でも年俸が高くなれば積極的に放出して金満球団から資金を吸い上げ、当座必要な戦力の補強に充てた。逆に、金満球団が持て余したスター選手がいれば、ただ同然で獲得して即座に放出対象（＝資金源）にした。

結果、イチローの所属するシアトル・マリナーズなど強豪揃いのアメリカン・リーグ西地区で00年から03年にかけて4年連続のプレーオフ進出という快挙を達成した（04年は同地区2位に終わり、惜しくもプレーオフ進出を逃した）。

アスレックスの度重なる好成績は、勝利に直結しない非効率な投資を行なう金満球団の存在に支えられているともいえる。日本のプロ野球にも無駄な投資を行なう金満球団は存在する。常に投資家の目を意識するIT企業がオーナーになった球団にとって、アスレックスの経営は、格好の手本になるだろう。勝てなければ、ただの貧乏球団としてファンから見放されてしまうリスクはあるが。

(会員 階 猛)



cinema

心に残る映画

『アマデウス』

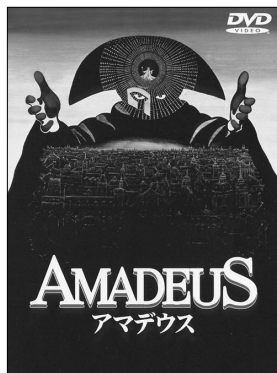
1984年／アメリカ／ミロス・フォアマン監督作品

凡庸なる全ての者への哀れみと愛情

「アマデウス」は、モーツァルトの半生を題材とした映画であり、同時代の作曲家であったサリエリの回想によって物語は進行する。1984年度アカデミー賞で8部門を獲得した作品である。

「アマデウス」が封切りされた頃、私はまだ中学生であり、サリエリが抱く音楽への愛情とモーツァルトへの嫉妬心を十分に理解できず、「アマデウス」に感動して映画を2回観たと熱く語る音楽教師の言葉だけが鮮明に記憶に残っていた。封切りから20年が経ち、改めて「アマデウス」を観ると、当時の上流階級や庶民の風俗、政治的背景等の時代考証の徹底振り、映画全体に散りばめられるモーツァルトの楽曲の数々、サリエリの口から語られる若く破天荒なモーツァルト像がとても新鮮であり、あのときの音楽教師の言葉がよく理解できる。

映画の舞台となる18世紀ウィーンの街並みや宮殿内の描写については、当時の街並みが多く残るプラハでロケが行



『アマデウス』DVD
発売元：ワーナー・ホーム・ビデオ
価格：2,100円（税込）
品番：DLS36218

なわれており、映画の中の宮殿も調度品も全てが本物である。それだけに細部にわたり迫力が伝わってくる。20年前の映画でも古さを感じさせないのは、やはり時代考証が徹底されているからだろうか。

晩年のサリエリはモーツァルト殺害の妄想に苛まされて自殺未遂を図り、精神障害者施設に収容される（この施設内での人物描写の迫真性は、同じ監督の作品である「カッコーの巣の上で」に通じる）。サリエリは施設の中で若い司祭に対して一晩かけてモーツァルトの思い出を語る。宮廷作曲家として成功していたサリエリは誰よりもモーツァルトの天賦の才能を理解し、それ故に嫉妬に苦しむのである。

映画の最後、精神を病む人々に語る「凡庸なる人々よ、君らの罪を許そう」というサリエリという言葉には、凡庸である私達全ての者に対する哀れみと愛情が感じられる。

（会員 牧野 義信）